

# ろうさい病院つうしん

発行所:中部ろうさい病院

〒455-8530 名古屋市港区港明1-10-6 http://www.chubuh.johas.go.jp/ TEL: 052-652-5511 FAX: 052-653-3533

# 病棟再編の経緯について



### 中部ろうさい病院 副院長 河村 孝彦

平成20年に新病棟が完成し、旧病棟から移転して早いもので8年がたちました。ここ数年は呼吸器内科の入院患者さんが増加し、当初計画していたリハビリテーション科との混合病棟では収容できず、半数以上が他病棟に分散されるという状況が続き、安全面や医師への負担などから、以前より病棟再編の必要性がしばしば議論されてきました。しかし、住み慣れた環境(職場)を変更することには抵抗もあり、また、設備の問題などもあって結局は先送りとなっていたのです。

今回、再編に至ったのは、今年4月の診療報酬改定が契機で、当院が地域の中核病院として、また、急性期病院を推進するためのより有効な病棟活用を考えてのことです。特に、急性期7対1の要件である「重症度、医療・看護必要度」の見直しが、この再編を後押ししたといっても過言ではありません。まず、構造上変えることができない診療科を除き、呼吸器内科と呼吸器外科を5階西病棟に集約して「呼吸器病センター」として機能強化しました。呼吸器内科の抜けた6階東病棟は、リハビリテーション科と糖尿病・内分泌内科との組み合わせで、状況によっては地域包括ケア病棟としても活用できることを視野に入れての再編となりました。移転と違って、スタッフや患者さんがそのまま移るわけではありませんので、安全面を考え患者さんの移動は少なくし、看護部の発案で看護師も移動組と残留組に分け、そして移動組も先発組と後発組に分かれて段階的に行い、大過なく無事6月末には再編を完了することができました。

なお、変更のあった診療科の詳細は、院内掲示、ホームページ、あるいは広報誌などでお知らせしていきます。

さて、肝心なことは、再編によって病院機能が活性化し、地域の皆さんに良質な医療を提供することにあります。正直なところ、診療科によっては、医師の不足から機能が十分に働いているとは言えません。しかし、我々は先生方や患者さんに信用、信頼される病院であることを念頭に歩んでいきたいと思っておりますので、今後とも温かい目、長い目でご支援のほどよろしくお願いいたします。

# 呼吸器病センター始動

~チーム医療で、多様な呼吸器疾患に挑む~



呼吸器病センター長・呼吸器外科部長 菅谷 将一

日本人における死亡原因の第1位は『がん』ですが、そのうち死亡率が最も高いのは肺がんです。 さらに、肺炎は第3位、慢性閉塞性肺疾患(COPD)は第10位と呼吸器疾患が上位を占めています。 これらの疾患は今後も増えると予想されており、呼吸器疾患への対応はますます重要になってくると 思われます。

当院では、こうしたニーズに対応し質の高い専門的な医療を提供するために、2016年7月より呼吸器病センターを開設しました。同時に、それまで別々の病棟であった呼吸器内科と呼吸器外科が病床再編により同一病棟(5階西病棟)に集約して、より質の高い迅速で安全な診療が可能となりました。当センターでは、呼吸器を専門とする内科と外科が連携して幅広く呼吸器疾患の診療にあたっています。(主な疾患を以下に示します。)特に、肺がんにおいては、診断から治療、術後再発に対する治療まで一貫した診療を行っています。また、術前術後のリハビリテーションや慢性呼吸不全に対する呼吸器リハビリテーションなども、リハビリテーション科や慢性呼吸器疾患の認定看護師らと協力して積極的に行っています。外来においては、禁煙外来を開設し、禁煙をサポートすることで病気の予防や病状の悪化防止に役立てるよう努めています。

先生方の日常診療にあきまして呼吸器疾患でお困りの患者さんがおられましたら、当センターへご 紹介いただけると幸いです。今後も先生方とともに病診連携を通して地域医療に貢献していく所存で すので、ご指導宜しくお願い申し上げます。

#### 《対象疾患》

腫 瘍………肺がん、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、悪性胸膜中皮腫

感染症…………気管支炎、肺炎、肺化膿症、膿胸、胸膜炎、肺真菌症、肺結核、非定型抗酸菌症

気道閉塞性疾患……慢性閉塞性肺疾患(COPD)、びまん性汎細気管支炎

アレルギー疾患……気管支喘息、過敏性肺炎、好酸球性肺炎

間質性肺疾患……間質性肺炎、サルコイドーシス

職業性肺疾患……じん肺、アスベスト関連性疾患

その他……自然気胸、気管支拡張症

#### 《内視鏡検査》

気管支や肺の病気を診断する際には、気管支鏡を用いて組織の採取や細胞・細菌の検査を行います。 細径気管支鏡は外径2.8mmと通常のカメラの約半分の太さで、肺の末端の病変までアプローチが可能 となりました。超音波内視鏡は気管支壁の奥に隠れたリンパ節や腫瘍などを超音波で確認することで、 安全かつ確実に針で穿刺できる検査法です。また、胸水症例に対しては胸部の局所麻酔のもと、内視 鏡を用いた胸腔鏡検査を行っています。







細径気管支鏡

超音波内視鏡

リンパ節

気管支鏡検査

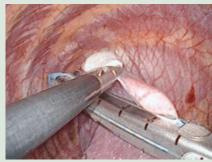
#### 《外科手術》

肺がんに対しては、手術、放射線治療、抗がん剤治療を呼吸器外科・呼吸器内科・放射線科で連携 して行っています。

肺がん以外にも転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍、胸膜腫瘍、膿胸、自然気胸などの外科的治療を行っており、体に負担の少ない胸腔鏡手術にも積極的に取り組んでいます。



肺がんの手術



自然気胸の手術



胸腔鏡手術

# 骨折治療法の変遷



### 整形外科部長 岡 義春

皆様方には、病診連携を通じていつも大変お世話になっております。この場をお借りして、厚く御 礼申し上げます。

当院では、本年6月より、整形外科の外来受付時間が午前8時15分から午前11時までとなり、受付終了時間が以前より30分短くなりました。大変ご面倒をおかけいたしますが、お間違えのないようにお願い申し上げます。また、本年7月に病床再編を行った際には、関節外科・一般整形外科の病棟が5階西病棟から4階西病棟に移動いたしましたので、併せてご報告させていただきます。(脊椎外科病棟は5階東病棟のままです。)

私が医師になったのは1984年でした。当時と比べますと、整形外科学もいささか進歩いたしました。 整形外科医自身の技量の進歩というよりは、主に検査器機や手術道具の進歩です。

中でも髄内釘手術は、長管骨骨折に対する優れた治療方法です。1972年、グロース&ケンプは、これまでの髄内釘に、横止めスクリューを組み合わせた画期的な方法を発表しました。その結果、長さの保持や回旋安定性が得られ、手術適応が拡大し、粉砕骨折や骨幹端部の骨折治療も可能となりました。1987年当時に勤務していた病院では、髄内釘に横止めスクリュー用の穴を開けて使用していましたが、最近では、髄内釘の遠位部でも横止めガイドを用いて、スクリューを刺入可能になっています。

2000年代になるとロッキングプレートが開発され、スクリューヘッドに作られたネジ山によって、 プレートとスクリュー間を強固に固定できるようになりました。欠点としてはプレートが分厚くなり、 鎖骨や足関節外果部には使いづらいところがあります。

また、1998年には日本で超音波骨折治療器が発売されました。低出力超音波パルスによる物理的 刺激を骨折部位に与えることで骨癒合が促進され、二重盲検臨床試験において、橈骨遠位端骨折及び 脛骨骨幹部骨折ともに、40%近く骨癒合日数が短縮しています。

実際のところ、治療法の選択は症例ごとに検討する必要があり、カンファレンスで最良の方法を選択しています。高齢化社会では骨折治療は益々重要な課題となっています。早期のADL向上を目指して努力してまいりたいと存じますので、今後とも御支援をお願い申し上げます。

# 「ストレスチェック」が義務化されました



この度、2015年12月から、労働者が50人以上の事業所では、毎年1回の「ストレスチェック※」の実施が法律で義務付けられました。

産業医の皆様にあかれましては、事業所の高ストレス者に対する慣れない面接指導にご苦労される方もいらっしゃるかと思われます。

これらに対する参考書籍として、当院 芦原 睦 心療内科部長が著作・編集した書籍「ストレスチェック対応 メンタルヘルス実践学」が発売されております。

高ストレス者への対応、職場ストレス症例のケーススタディ、臨床医と産業医の連携等について分かりやすく示してありますので、ぜひご一読いただければ幸いです。

また、厚生労働省が開設している、働く人のメンタルヘルス・ポータルサイト「こころの耳」にも、ストレスチェックに関連した情報が掲載されておりますので、併せてご覧ください。

### 「こころの耳」URL: http://kokoro.mhlw.go.jp/

※ 労働者のストレス状況について検査を行い、各自のストレス状況について気付きを促すとともに、集計結果に基づいた職場環境の改善を通じて、労働者のメンタルヘルス不調を未然に予防することを目的とした取組。



「ストレスチェック対応 メンタルヘルス実践学」 (編著:中部ろうさい病院 心療内科部長 芦原 睦) 書店、インターネット等で発売中です。

定価3,240円(税込)

10月22日(土)、仙台サンプラザにおいて開催される「第64回日本職業・災害医学会学術大会」において、「ストレスチェック制度 現状と課題~よりよい制度にするために~」と題したシンポジウムが行われます。(厚生労働省労働基準局安全衛生部の 武田 康久 労働衛生課長が「職場におけるメンタルヘルス対策とストレスチェック制度」と題して講演されます。)

演者等の詳細については、以下のURLから大会プログラムをご確認ください。

http://www2.convention.co.jp/jsomt64/program/index.html

# ろうさいハートホットラインのご案内

当院では、連携医療機関の先生方からの循環器疾患に係る救急患者のご相談について、当院循環器 内科スタッフが直接電話で対応させていただく「ろうさいハートホットライン」を開設しております。

当ホットラインについては、機器故障に伴い一旦運用を見合わせていたところでしたが、機器の復 旧に併せて、本年6月より再開させていただいております。

つきましては、改めて本ホットラインをご案内させていただきますので、是非、ご活用くださいますようお願いいたします。

今後とも、連携医療機関の先生方からの循環器疾患に関するご要望にお応えしていくための体制を 整えて参りますので、変わらぬご支援、ご指導の程、よろしくお願いいたします。

## ☆ろうさいハートホットライン:

(フリーダイヤル・24時間対応)

0120-099631 (オー救急ろうさい)

#### 【留意事項】

- 1) このフリーダイヤルは、当院循環器内科医師が、循環器疾患に関して救急対応が必要な疾患についての診療要請、お問い合わせに直接対応させていただきます。
- 2) フリーダイヤルを以下の携帯電話へ転送するため、フリーダイヤルの案内が流れ、5~10秒程度 の接続時間を必要とします。

携帯 1号機 070-5644-4736

携帯 2号機 070-5646-4850

# インターネット予約システムの導入について

連携医療機関の先生方からの検査予約(紹介)については、これまで当院地域医療連携室へ「FAX」でお申込みをいただいてきましたが、今般、インターネットを介し24時間いつでもオンライン予約が可能となる「地域医療連携検査予約システム」(C@RNA Connect)を導入する事になりました。

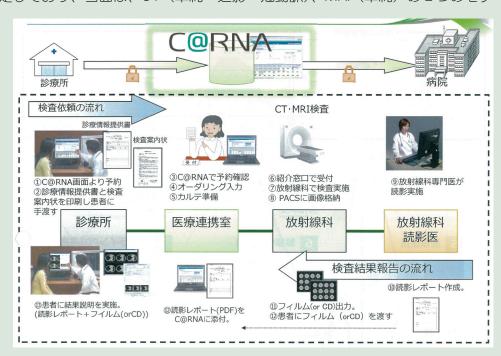
本システムは、名古屋市南部の急性期病院を始め、複数の医療機関でも稼働実績があるネットワークであり、このネットワークに加入していただくことにより、先生方は、検査予約をタイムリーに取得することができ、また、加入している複数の医療機関から選択することが可能となります。

特に、当院地域医療連携室の業務終了後(平日19時30分以降)や、土曜日の診察日などでCT、MRI等の予約をいただく場合、今までは、翌診療日に予約を取得し、実施時間等をご案内して参りましたが、その場で予約可能日が一覧でき、必要な検査案内もすぐに印刷して患者さんにお渡しすることが可能となります。加えて、患者さんをお待たせする時間が大幅に減り、先生方の検査依頼申込書を作成する手間と、当院からの返事を待っていただく時間も要らないため、診療時間の大幅な短縮にもつながるなどのメリットがございます。

稼働開始は11月を予定しており、当面は、CT(単純・造影・冠動脈)、MRI(単純)の2つのモダ

リティで運用すること としています。

おって、具体的な日程、運用方法について、 地域医療連携室からご 案内させていただきま すので、今後とも当院 との連携にご理解ご協 力をお願いいたしま す。



C@RNA Connect利用の流れ

# 地域医療連携室だより

#### 夏期病診連携セミナーの開催報告

去る9月3日(土)、当院2階講堂におきまして、夏期病診連携セミナーを開催いたしました。 今年度は、連携医療機関の先生方のご都合を考えて、開催日時を土曜日の夕方といたしました が、その甲斐があり、ここ数年の夏季セミナーの中では最多のご出席をいただきました。

今回のセミナーは、糖尿病・内分泌内科 中島 英太郎 部長から、「糖尿病治療における最近の 話題~高齢者社会への対応~」と題して、糖尿病に関する最新トピックスを情報提供いたしまし

生活習慣病でもある糖尿病は、連携医療機関の先生方の関心の高い題材であり、高齢者糖尿病 の血糖コントロールの新基準などについては、活発な質疑応答が行われました。

また、セミナー冒頭には「医療機関での患者対応ABC」と題して、当院よろず相談室での患 者相談事例を紹介し、併せて、個人情報保護への対応、ITの進歩に伴う新たな患者対応事例等 についても情報提供いたしました。

質疑応答後には、加藤院長からご出席いただいた先生方へのごあいさつと当院の現状報告を行 い、セミナー終了後には、病診連携に係る意見交換も行いました。

次回、冬期の病診連携セミナーにおいても、登録医の先生方のニーズを踏まえた演題として参 りますので、是非、当院地域医療連携室まで、ご意見・ご希望をお寄せください。

### 医師交代

#### ☆退 職

(平成28年6月30日付け)

志水 英明 腎臓内科部長 宮田 裕大 泌尿器科医師

(平成28年7月31日付け)

剛彦 消化器内科医師 森本 磯浦 東 総合内科医師

(平成28年8月31日付け)

清水 賢三 脳神経外科医師

(平成28年9月30日付け)

大木 隆史 小児科部長 富田 桂介 整形外科医師

☆採 用

(平成28年7月1日付け) 坂元 史稔 泌尿器科医師 柴田 寛幸 消化器内科医師

(平成28年10月1日付け) 井戸田 大 整形外科医師

☆補 職

(平成28年7月1日付け)

藤田 芳郎 副院長

> リウマチ科部長(兼務) 腎臓内科部長(兼務)

#### 当院の理念

納得、安心、そして未来へ

#### 当院の基本方針

- ・医療の質の向上と安全管理の徹底
- ・生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
- ・人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
- ・地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
- ・災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応 しい高度医療の提供

☎地域医療連携室 (平日 8:15~19:30)

052-652-5950 (TEL)

052-652-**57**16 (FAX)

長:加藤 文彦(院長)

坂口 憲史(副院長)

事 務 担 当:今関 信夫・鈴木 美有・

内藤 遵子・金井 久実